

醤油のまち・野田/春の探索下見

●文化度の高いまち・野田！

今日は朝9時50分から16時40分まで江戸川を挟んでお隣の千葉県野田市に行ってきました。用件は4月17日(日)の予定している春日部地区浦高会と久喜麗和会との合同企画小旅行「醤油のまち・野田/春の探索旅」の下見で、野田市在住の会員・石塚勝巳(13回卒)さんにご案内いただきました。

* *



〔鉄道高架事業の進む野田市駅〕

◆野田市駅到着

春日部地区浦高会の鳥井副会長(11回)東武アーバンパークライン線で9時48分、野田市駅に到着しました。改札口で石塚さんと合流しました。

野田市では、清水公園駅～梅郷駅約2,905mの区間で平成19年度～29年度の予定で鉄道高架事業が進んでおり、愛宕駅と野田市駅が高架化されるのに伴い駅周辺ではさまざまな工事が進んでいました。もともと賑やかではなかった野田市駅周辺ですが、どんな形に変わっていくのでしょうか。

* *

◆もの知りしょうゆ館へ

野田市駅から歩いて3分、「キッコーマンもの知りしょうゆ館」に到着しました。この見学は無料ですが、見学者が多いため事前の申し込みが必要です。駐車場に面して土日は見学することができない「御用蔵」があります。ここでは宮内庁へ納める醤油を現在も伝統的な製法で製造しているそうです。旅本番の17日は日曜日ですが、石塚さんのお力で何とか見せていただけるものと思います。「御用蔵」は1939年(昭和14年)に江戸川沿いに建てられた施設を2011年(平成23年)に移築・修理を行ったそうです。しょうゆを仕込む木桶、屋根の小屋組み、屋根瓦、石垣、門などは移築前のものを使用し、原形に近い形で再現しているそうです。



〔もの知りしょうゆ館〕



〔御用蔵〕

「もの知りしょうゆ館」では、<しょうゆの作り方・ビデオ上映><原料(大豆、小麦、塩、麹菌)の確認><しょうゆの元となる製麹(せいきく)><発酵・熟成の工程><もろみを搾る圧搾>を見学することができます。その後の<火入れ・詰め>の工程は鉄道の向こう側の工場で行っているとのことでした。1回の製麹作業では11万リットル、最大33万リットルの仕込みタンクが敷地内に660本、圧搾の袋は延長2,700mと桁違いの数字にびっくりぼんでした。最後に「しぼりたて生しょうゆ」をお土産にいただき参加者全員がにっこり。

* *

◆上花輪歴史館(国指定名勝 高梨氏庭園)へ

11時30分、「もの知りしょうゆ館」を後にして野田市街を歩きます。倉庫や工場等が多く見られました。約20分で「上花輪歴史館(国指定名勝 高梨氏庭園)」に到着しました。ここは庭園を巡るだけで約50分(入園料500円)、母屋に入るとさらに50分(建物と庭園入館料1500円)というので、庭園だけの鑑賞に留めましたが、敷地の西側に江戸川に繋がる溝堀が巡らされており、船着き場もあり、財力の凄さを感じました。



〔原料の説明、この先は撮影×〕



〔33万リットルの仕込みタンク〕



〔上花輪歴史館入口の長屋門〕



〔長屋門をくぐり、表玄関を望む〕



〔庭園の中の茶室「眺春庵」〕

「上花輪歴史館（かみはなわ れきしかん）」は、江戸時代、上花輪村（現千葉県野田市上花輪）の名主であり醤油醸造を家業としていた高梨兵左衛門（たかなし ひょうざえもん）家の屋敷や、代々伝わる年中行事、古文書、物品を受け継ぎ、保存公開している博物館です。平成6年(1994)の開館当時は千葉県指定名勝、平成13年からは、敷地全体の景観を国指定名勝「高梨氏庭園」に指定されています(昭和の庭園としては全国初)。【同館HPより】

* *

◆コメ・スタへ

12時30分、「上花輪歴史館」を後にして、石塚さんの車でイタリアン料理の「コメ・スタ」へ。小旅行ではここで夕方からイタリアンをいただきながら懇親会の予定です。



〔コメ・スタでイタリアンランチ〕

* *

◆野田市市民会館

皆さんは「市民会館」というと鉄筋コンクリート作りのハコモノを想像されるのではないかと思います。懐が深く、文化度の高い野田市は違いました。ここは「野田市民のいこいの場・市民会館」とあり、いただいたパンフレットには「茂木佐邸物語」とのタイトルが…。



〔野田市市民会館・玄関〕



〔吉永小百合も座った縁側から〕

「野田市市民会館

は、茂木佐平治邸(醤油醸造家)として大正13年(1924)頃に完成しました。昭和31年(1956)10月、当時の野田醤油(株)を経て市に寄付され、同12月24日に市民会館として開館しました。庭園に囲まれた純和風の趣きのある家屋は、瓦、柱などすべて特別に注文したものです。また、隣接する茶室は、茂木佐平治家の先々代により、明治初期に元の茂木佐平治邸に建てられたものです。昭和初期に解体され、昭和43年(1968)には別の場所へ再築、その後、市が寄贈をうけてこの地へ移築し、昭和59年(1984)に市民の茶室として開庵したもので、茶会や歌会などに利用できます。平成9年に主屋と茶室が国の「登録有形文化財」になりました。また、平成20年に庭園が「登録記念物」になりました。」

これだけの施設が昭和31年に市へ寄贈され、その後60年にわたって維持管理、市民文化の向上のために活用されてきたということが凄いですね。文化度の高さを示す建物だと感心しました。次回は、観光ボランティアの方からご説明をいただきながらゆっくりと見学する予定です。

続いて、敷地内にある「野田市郷土資料館(昭和34年)」を見学しました。この建物は、野田醤油(株)が建設資金を提供し、日本武道館を設計した建築家・山田守氏が設計しているそうです。古さを感じさせません。

* *

◆興風会館（こうふうかいかん）

今回は通っただけでしたが、17日の小旅行では建物内部も見学したい建物が「興風会館」です。



〔興風会館外観〕

「野田市の茂木・高梨の醤油醸造家は、事業発展のため大正6年合同して野田醤油株式会社を設立しました。これを支援する経営者団体として組織されたのが、合名会社千秋社(現株式会社)です。興風会は、

昭和3年11月、ご大典記念にその千秋社からの寄付によって財団法人として設立されました。翌昭和4年には会館が竣工し、社会教化事業の推進を目的として活動しています。興風会館は幾度の改修工事を経て現在に至っていますが、当時としては類を見ないロマネスク様式を加味した近世復興式で、県内では千葉県庁舎に継ぐ大建築であったと言われています。【千葉県の近代産業遺産より】

野田市街地には、大正から昭和初期にかけて建てられ、現在も残る建物が14もあるそうで、「たても散策圖繪(MAP) 近代化産業遺産のまちー野田」というマップが出来上がっています。

次回の散策では、「茂木佐公園稲荷堂(大正3年)」「茂木七左衛門邸(茂木本家、門構えと煉瓦塀、明治末期～大正)」「キッコーマン・稲荷蔵(明治41年)」「株式会社千秋社社屋(旧野田商誘銀行、大正15年)」などを楽しむことができるのではないのでしょうか。

野田市は平成19年(2007年)に経済産業省から「近代化産業遺産群」の認定を受けましたが、工場などの生産施設だけでなく、企業が地域貢献のために建設・寄贈した建物が多いことが特徴だそうです。

* *

◆清水公園・慈光山金乗院へ

午後4時前に野田市街を離れ、石塚さんの車で桜の名所・清水公園へ。桜を眺め金乗院を拝んで本日の下見を終えました。とても充実した1日でした。